



学びの ページ

「師の御恩」

今

回せ!二編五常報恩の中の「師の御恩」について考えてみましょう。

「師」と聞いた時、どんな人が思い浮かびますか？ 辞書で調べてみると、「師」とは学問や技芸を教える人や先生、師匠のことを指す言葉だといいます。つまり、自分に対して何かを教えてくれる人が「師」です。

一番分かりやすいのは、学校や習い事の先生です。勉強や技能を教えてくれるのはもちろんのこと、相談に乗ってくれたり、悪いことをしたら注意し叱つてくれたりします。しかし、実はあなたの周りには、もっとむづと多くの師がいるのです。

たとえば、話している言葉や歩き方、お箸の使い方など、あなたが当たり前にしている行動一つひとつは、初めからできたわけではありませんよね。善悪

の区別や社会の一般常識など、人間が生きていく上で必要不可欠な知識も、すべて誰かに教えてもらつたもの。師の御恩のお蔭さまであります。

また、師といえば、自分より年上の人や大人をイメージしがちですが、同一年や年下の人であっても、その人の立ち振る舞いや考え方など、一つでも見習いたいと思えるところを見つけたら、みんなあなたにとつての師になります。

さらに、自分にとつて良いことを教えてくれる人だけが師ではありません。たとえば、あなたに対しても、嫌な態度で接してくれる人もいるでしょ。しかし、その人のお蔭で「こうこうの態度で接すると、相手はこんな気持ちになるんだ」ということを知ることができます。反面教師としていけば、その人もあなたを

成長させてくれる師です。

そして、私たち会員が何よりも忘れてはいけない師は、み教えを遺してくださった金剛さまです。金剛さまは「われ以外みな師なり」とおっしゃられ、たとえ一本の草木であっても、周りにあるすべてを師として学ぶことを教えてくださっています。

こうしたたくさんの師の存在に気がつくためには、常に謙虚で素直な気持ちを持つことが大切です。人から注意された時、「うるさいな」と思うか、「自分のためを思って言ってくださつたんだ」と思えるかで、その後のあなたの成長を大きく左右することでしょう。「すべてを師」とできるかどうかは、受け取る自分の心次第なのです。

◎自分にとつての「師」を考え、どんなことを教わったか、みんなで話し合ってみよう。